

2015年版『エネルギー管理士試験 [熱分野] 直前整理』  
訂正のお願い

本文中 IPCC 第4次評価報告書のくだりは、下記第5次評価報告書の内容に差し替えてください。お詫びして、訂正させていただきます。

【訂正箇所】 p.25 (15行～23行)

2014年9月に公表された IPCC (気候変動に関する政府間パネル) 第5次評価報告書では次のように報告されている。

- ・気候に対する人為的影響は、大気と海洋の温暖化、世界の水循環の変化、雪氷の減少、世界平均海面水位の上昇、及びいくつかの気候の極端現象の変化において検出されている。人間による影響が20世紀半ば以降に観測された温暖化の支配的な原因であった可能性が極めて高い。
- ・世界平均地上気温は1880年から2012年の期間に0.85 [0.65～1.06] °C上昇している。1901年から2012年では、ほとんど地球全体で地上気温の上昇が起きている。
- ・1901年から2010年の期間に、世界平均海面水位は0.19 [0.17～0.21] m上昇した。
- ・大気中の二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素は、少なくとも過去80万年間で前例のない水準にまで増加している。2011年度の二酸化炭素の大気中濃度は391ppmである。二酸化炭素濃度は、化石燃料からの排出などにより、工業化以前より40%増加した。海洋は排出された人為起源の二酸化炭素の約30%を吸収し海洋酸性化を引き起こしている。
- ・2081～2100年の世界平均地上気温の1986～2005年平均に対する上昇量は、0.3～4.8°Cの範囲に入る可能性が高いと予測される。
- ・世界平均地上気温の上昇につれて、ほとんどの陸域で、極端な高温がより頻繁になり、極端な低温が減少することはほぼ確実である。
- ・1986～2005年平均を基準とした、2081～2100年平均の世界平均海面水位の上昇は0.26～0.82mの範囲となる可能性が高い。
- ・二酸化炭素の累積排出量と世界平均地上気温の応答は、ほぼ比例関係にある。
- ・気候変動の特徴の大部分は、たとえ二酸化炭素の排出が停止したとしても、何世紀にわたって持続するだろう。

2015年3月2日

一般財団法人 省エネルギーセンター出版部